

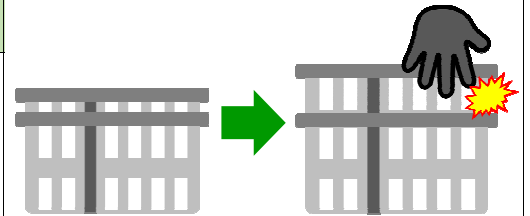
手や指を切らないためには・・・

素手で物を取り扱ったりカッターナイフを取り扱う際、手や指を切った（切りそうになった）ことはないですか？ケガを未然に防ぐためには手袋着用のルールを守り、カッターナイフの正しい使い方を知ることが大切です。実際にケガを負った例をもとに、ケガから手や指を守るための注意点を確認しましょう。

●実際にケガを負った例

事例① 素手でプラスチックトレイを取ろうとして・・・

重ねて置いてあるプラスチックトレイの穴に指を入れて素手で取ろうとした際、穴の縁が鋭くなっている部分で左手人差し指を切った。

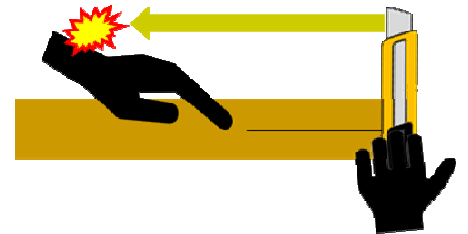


ポイント

素手でプラスチックトレイを取ろうとした→素手で取り扱っても大丈夫だろうと判断した

事例② 刃を出したままのカッターナイフを手に持っていて・・・

カッターナイフでダンボールに切れ込みを入れた後、刃を出したままのカッターナイフを右手に持ちながらダンボールをつかみ、自分側へ動かしたところ、ダンボールを押さえていた左手の手首にカッターナイフの刃が当たり、切り傷を負った。



ポイント

刃を出したままのカッターナイフを右手に持っていた→刃を戻し忘れたまま次の作業を行った

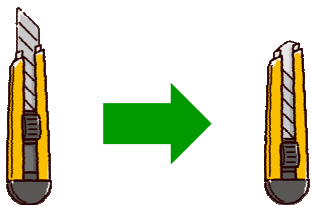
●ケガから手や指を守るための注意点

1.手袋着用のルールを守る・素手で物を取り扱う危険性を認識する

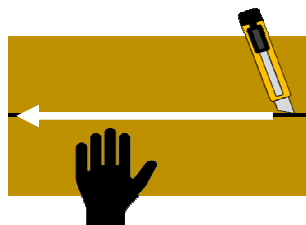
作業で切り傷を負う原因の多くは、『作業がやりにくい』『手袋がなくても大丈夫』などの自己判断から素手で行うことがあります。素手で取り扱っても大丈夫に見える紙やダンボールの切れ端などでも切り傷を負うことがあるため、手袋着用のルールを守り、素手で物を取り扱う危険性を十分に認識することが大切です。

2.カッターナイフを正しく取り扱う

カッターナイフは使い方を誤ると危険です。使用後は必ず刃を戻し、刃の進む方向に手を置かないよう注意しましょう。



使用後は必ず刃を戻す



刃の進む方向に手を置かない

【その他の注意点】

- ・刃を長く出し過ぎない
- ・まわりを整理整頓する
- ・あわてて使わない
- ・素手で刃を折らない

作業場の中には、通常より丈夫な繊維を用いた耐切創用（たいせつそうよう）手袋や、バネで刃が自動的に戻るセーフティカッターを使用するところもあります。手袋やカッターナイフに関する職場ルールは必ず確認しましょう。



★今月の安全衛生川柳～慢心はケガの大きな原因となります。

気をつけて その慢心が 命取り

北大阪支店 スタッフさんの作品

